

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニホンマツガクイン 学校法人 二本松学院									
フリガナ大学の名称	キョウトビジュツコウゲイダイガクダイガクイン 京都美術工芸大学大学院 (Graduate School of Applied Art, Kyoto Arts and Crafts University)									
大学本部の位置	京都府京都市東山区鞆町通正面下る上堀詰町272番1									
大学の目的	世界を代表する美術工芸文化が息づく京都で、我が国の伝統と文化を尊重し、その継承と文化の創造を担う有為な人材を育成するため、美術工芸に係る教育・研究を行い、併せて教養を身に付けた専門職業人を育てることを目的とし、さらに本学の理念を継承・発展させ、学生及び社会の要請に応えるため、建築を含む美術工芸に係るより高度な教育・研究を行い、教養豊かな専門職業人・研究者を育成することにより、国家・社会の発展に貢献する。									
新設学部等の目的	変化する社会にしなやかに適合するとともに、建築を含む美術工芸に関する幅広い高度な専門知識・技能と豊かな教養を発揮し、社会の発展に貢献するために現実の課題を解決する課題解決力、伝統から革新を生み出す構想力、多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力を身に付けた人間性あふれる人材を育成すること。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	工芸学研究科 (Graduate School of Applied Art) 建築学専攻 (Major of Architecture) 計	2年	10人	-	20人	修士(建築) (Master of Architecture)	令和2年4月第1年次	京都府京都市東山区鞆町通正面下る上堀詰町272番1		
【基礎となる学部等】 工芸学部 建築学科 ※学部・大学院を一体として標記する場合は、School of Architecture を使用する。										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	工芸学研究科建築学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
		10科目	4科目	2科目	16科目					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計		
	新設分	工芸学研究科 建築学専攻		5人 (5)	2人 (2)	2人 (2)	2人 (2)	11人 (11)	0人 (0)	-1人 (-)
		計		5人 (5)	2人 (2)	2人 (2)	2人 (2)	11人 (11)	0人 (0)	-1人 (-)
	既設分	該当なし		-	-	-	-	-	-	-
		計		-	-	-	-	-	-	-
合計		5人 (5)	2人 (2)	2人 (2)	2人 (2)	11人 (11)	0人 (0)	-1人 (-)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		17人 (17)		0人 (0)		17人 (17)			
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員		3 (3)		1 (1)		4 (4)			
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計		20 (20)		1 (1)		21 (21)				
大学全体										

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用する他の学校 <専>京都建築大学校、 定員1550人 <専>京都伝統工芸大学 校、定員530人 専修学校設置基準第45 条に定める校舎等に必 要な面積の校地を備え ている。 <専>京都建築大学 校、4,850㎡ <専>京都伝統工芸大学 校、1,730㎡ 借地：16,176㎡、25年 借地：8,108㎡、60年				
	校 舎 敷 地	5,940㎡	2,863㎡	3,863㎡	12,666㎡					
	運 動 場 用 地	1,425㎡	8,799㎡	0㎡	10,224㎡					
	小 計	7,365㎡	11,662㎡	3,863㎡	22,890㎡					
	そ の 他	2,346㎡	60,180㎡	0㎡	62,526㎡					
	合 計	9,711㎡	71,842㎡	3,863㎡	85,416㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用する他の学校 に必要な校舎面積 <専>京都建築大学 校、4,850㎡ <専>京都伝統工芸大 学 校、1,730㎡				
		18,089㎡ (18,089㎡)	575㎡ (575㎡)	14,198㎡ (14,198㎡)	32,862㎡ (32,862㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	11室	23室	26室	3室 (補助職員一人)	1室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		7 室				
		工芸学研究科建築学専攻								
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 26,085冊 〔659冊〕 学術雑誌 51冊〔2冊〕 電子ジャーナル 0冊〔0冊〕 視聴覚資料 109点 機械・器具 16点 標本 0点		
	工芸学研究科 建築学専攻	1,620〔600〕 (500〔200〕)	16〔5〕 (16〔5〕)	4〔3〕 (4〔3〕)	50 (50)	0 (0)	0 (0)			
	計	1,620〔600〕 (500〔200〕)	16〔5〕 (16〔5〕)	4〔3〕 (4〔3〕)	50 (50)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		1,420㎡		104	53,500冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			なし			
		1,127㎡								
経 費 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費大学全体
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	4,500千円	4,500千円	4,500千円	—	—	—	—	
	設備購入費	8,646千円	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,450千円	1,150千円	—千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立学校等経常経費補助金、手数料収入、雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	京都美術工芸大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	工芸学部	年	人	年次 人	人		倍		京都府京都市東山 区鞆町通正面下る 上堀詰町272番1	
	美術工芸学科	4	100	5 3年次	410	学士(工芸)	0.96	H24		
建築学科	4	150	5	610	学士(工芸)	1.22	H28			
附属施設の概要		該当なし								

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工芸学研究科建築学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
美術 工芸 科目	美術工芸特論	1・2前		2		○									
	インテリアデザイン特論	1・2後		2		○									
	都市環境と芸術	1・2前		2		○									
	工芸とデザイン	1・2後		2		○									
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			1	0	0	1	0	0	—
専 門 特 論 科 目	伝統建築特論Ⅰ	1前	2			○									
	伝統建築特論Ⅱ	1後	2			○									
	建築計画特論Ⅰ	1前	2			○									
	建築計画特論Ⅱ	1後	2			○									
	建築設計特論Ⅰ	1前		2		○									
	建築設計特論Ⅱ	1後		2		○									
	小計（6科目）	—	8	4	0	—			4	2	0	0	0	0	—
専 門 研 究 科 目	建築デザイン特別演習Ⅰ	1前		6			○								
	建築デザイン特別演習Ⅱ	1後		6			○								
	建築学特別研究Ⅰ	2前	6				○								
	建築学特別研究Ⅱ	2後	6				○								
	インターンシップⅠ	1夏季		8					○						
	インターンシップⅡ	2夏季		8					○						
	小計（6科目）	—	12	28	0	—			5	2	2	2	0	0	—
合計（16科目）		—	20	40	0	—			5	2	2	2	0	0	—
学位又は称号		修士（建築）			学位又は学科の分野			美術関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
美術工芸科目から4単位以上、専門特論科目からは必修8単位、専門研究科目からは必修12単位、選択6単位以上、計30単位以上取得および修士研究（修士論文又は修士設計）の提出。							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工芸学部建築学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	歴史学	1前		2		○								兼1	
	生物と環境(未開講)	1前		2		○								兼1	
	美学	1前		2		○								兼1	
	技芸と文学	3前		2		○								兼1	
	栄養学入門	1後		2		○								兼1	
	生涯学習論	1前		2		○								兼1	
	生活と法律	1後		2		○								兼1	
	博物館概論	1後		2		○								兼3	
	森林学概論	1後		2		○								兼1	
	人と農業(未開講)	3後		2		○								兼1	
	科学と芸術	2前		2		○								兼1	
	工芸と経済	2前		2		○								兼1	
	伝統と学び	3前		2		○								兼1	
	哲学	3後		2		○								兼1	
	教育学	4後		2		○								兼1	
	世界文化遺産論	1前		2		○								兼1	
	人間関係の科学	1後		2		○								兼1	
	表現技術論	2前		2		○								兼4	
小計 (18科目)		—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	兼18	—
教養教育科目	日本工芸美術史	1前	2			○								兼1	
	京都学	1前		2		○			1					兼13	オムニバス
	伝統芸術入門Ⅰ	2前		1			○							兼4	
	伝統芸術入門Ⅱ	2後		1			○							兼4	
	伝統芸術展開Ⅰ(未開講)	3前		1			○							兼3	
	伝統芸術展開Ⅱ(未開講)	3後		1			○							兼3	
	日本文化史	4前		2		○								兼1	
	京都学演習Ⅰ	2後	2				○		2	1				兼4	
小計 (8科目)		—	4	8	0	—		2	1	0	0	0	兼22	—	
コミュニケーション科目	日本語表現法	1後		1			○							兼1	
	英会話Ⅰ	1前	1				○							兼1	
	美術工芸英語	1後	1				○							兼1	
	英会話Ⅱ	2前		1			○							兼1	
	英語コミュニケーション	3前		1			○							兼1	
	情報基礎演習	1前		2			○			1	1	1			
	総合コミュニケーション	3前		1			○							兼2	
小計 (7科目)		—	2	6	0	—		0	1	1	1	0	兼3	—	
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ	1前		2		○			5	1				兼9	オムニバス
	しごと論Ⅱ	3前		2		○			4	1				兼9	オムニバス
	社会活動Ⅰ	1通		1					1		1			兼4	
	社会活動Ⅱ	2通		1					1		1			兼4	
	インターンシップ	3通		2							2			兼6	
	メディアリテラシー	1後		2		○								兼1	
	現代社会論	3前		2		○								兼1	
小計 (7科目)		—	0	12	0	—		5	1	2	0	0	兼16	—	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工芸学部建築学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	基本 科目	工芸概論	1前	2			○								兼6	オムニバス
		伝統工芸概論	1前	2			○								兼13	オムニバス
		構成基礎演習	1前		1			○							兼2	
		伝統住居概論	1後		2		○			1						
		色彩学	1前		2		○								兼1	
		日本美術史	1後	2			○								兼1	
		素描	1前		2			○							兼3	
		デザイン概論	1前		2		○								兼1	
		社寺建築概論	2前		2		○			1						
		西洋美術史	2前		2		○								兼1	
		東洋美術史	3後		2		○								兼1	
		伝統絵画技法Ⅰ	2前		2			○							兼1	
		建築計画Ⅰ	1後		2		○				1					
		建築構造力学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		文化財保存概論（未開講）	1前		2		○								兼1	
		建築概論	1前	2			○			2						
		文化財概論	1後		2		○								兼1	
	小計（17科目）	—	—	8	25	0	—	—	—	2	1	1	0	0	兼28	—
	基本 科目	色彩理論演習	2前		2			○							兼2	
		伝統住居論	2後		2		○					1				
		デザイン作図演習	2前		2			○		1		1				
		デザインと法規	2後		2		○								兼1	
		発想と表現（未開講）	2後		2			○							兼2	
		伝統絵画技法Ⅱ	2後		2			○							兼1	
		社寺建築論（未開講）	3前		2		○								兼1	
		伝統空間論	3前		2		○								兼1	
		伝統建築環境学	3前		2		○			1						
		文献・絵画史料概論	2後		2		○								兼1	
		伝統構造学	2後		2		○				1					
		伝統建築図（基礎）	2後		2			○			1				兼1	
		IT活用応用演習	2後		2			○	○		1	1	1			
		コンピュータデザイン演習	1後		2			○	○		1	1	1			
		建築計画Ⅱ	2前		2		○						1			
		建築一般構造Ⅰ	2前		2		○						1			
		建築材料	2後		2		○									兼1
	建築法規	2後		2		○									兼1	
	建築構造力学Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	建築環境工学	2後		2		○									兼1	
	文化財修理論	2前		2		○				1				兼9	オムニバス	
	文化財マネジメント論	2後		2		○								兼1		
	小計（22科目）	—	—	0	44	0	—	—	—	2	2	4	1	0	兼21	—
	展 開 科 目	古文書解読演習Ⅰ	3前		1			○							兼1	
		伝統建築図（応用）	3前		2			○			1				兼1	
		伝統建築論Ⅰ	2前		2		○			1						
伝統建築論Ⅱ		3後		2		○			1	1						
古文書解読演習Ⅱ		3後		1			○							兼1		
室内意匠論		3後		2		○					1					
伝統建築図（発展）（未開講）		3後		2			○			1				兼1		
雛形製作（未開講）		3後		2				○						兼1		
建築計画Ⅲ		2後		2		○			1		1					
建築計画Ⅳ	3前		2		○			1								
建築設備	3前		2		○								兼1			

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(工芸学部建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	美術工芸科目 展開科目	建築一般構造Ⅱ	2後	2			○								
		建築構造力学Ⅲ	3前	2			○				1				兼1
		建築施工法	3前	2			○								兼1
		専門演習	4前	2				○			2				兼3
		公共デザイン論	3後	2				○							兼1
		小計(16科目)	—	0	30	0				2	2	2	0	0	兼9
専門教育科目	工芸基礎系	工芸実習導入(建築デザイン)	1前	3					○						
		工芸実習基礎Ⅰ(建築デザイン)	1後	4					○		1				
		工芸実習基礎Ⅱ(建築デザイン)	2前	4					○			2			兼1
		小計(3科目)	—	11	0	0				1	1	3	1	0	兼1
	建築デザイン系	建築デザイン演習Ⅰ	2後		4				○		1	1	2		
		建築デザイン演習Ⅱ	3通		6				○		3	1	1		
		建築デザイン演習Ⅲ	4前		4				○		4		4		
		小計(3科目)	—	0	14	0				4	1	4	0	0	兼0
	伝統建築系	伝統建築専門実習Ⅰ	2後		4							1			
		伝統建築専門実習Ⅱ	3通		6							1			兼1
伝統建築専門実習Ⅲ		4前		4							1			兼1	
小計(3科目)		—	0	14	0				0	1	0	0	0	兼1	
共通科目	卒業制作	4後	6						○	4	1	4			兼1
		小計(1科目)	—	6	0	0				4	1	4	0	0	兼1
博物館学芸員養成科目	博物館経営論	2前			2	○								兼1	
	博物館資料論	2後			2	○								兼1	
	博物館資料保存論	3前			2	○								兼1	
	博物館展示論	3後			2	○								兼1	
	博物館情報・メディア論	4前			2	○								兼1	
	博物館教育論	4前			2	○								兼1	
	博物館実習	4通			2			○						兼1	
	小計(7科目)	—	0	0	14				0	0	0	0	0	兼3	
合計(119科目)		—	31	189	14				5	2	4	1	0	兼82	
学位又は称号		学士(工芸)			学位又は学科の分野			美術関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
教養科目より22単位以上、伝統文化科目より必修4単位を含む8単位以上、コミュニケーション科目より必修2単位を含む6単位以上、キャリア科目より6単位以上、美術工芸科目より51単位以上、但し、基本科目より選択科目11単位以上、基幹科目より選択科目14単位以上、展開科目より選択科目14単位以上、専門演習・実習科目の工芸基礎系より必修11単位、建築デザイン系、伝統建築系のいずれかの領域よりその指定された14単位を修得すること、および卒業制作を提出すること。 博物館学芸員資格取得には自由選択7科目14単位と、教養科目(生涯学習論・博物館概論の2科目4単位)計9科目18単位を修得のこと。							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(工芸学研究科建築学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
美術 工芸科目	美術工芸特論	美術と工芸はどこが違うのか。近代以降、日本でも主に用途の有無によって美術と工芸が分けられて来たが、現代においてその壁を越える概念が現れつつある。美術作家及び工芸作家の作品を通して美術と工芸の距離について、さらに美術と工芸の遠近を探る。	
	インテリアデザイン 特論	インテリアデザインの視点から、住宅から商空間、公共空間、展示空間などの様々なインテリア事例を通してその成り立ちを考察し、人とライフスタイルが及ぼすインテリアとの関係性などのコンセプトや手法を解説。ディスカッションを行いより深い理解へと導く。	
	都市環境と芸術	都市景観を形成する上での様々な要素、特に人々の暮らしぶりが表出する街路、広場、公園等がもたらす文化的価値および芸術性について考察。フィールドサーベイを通して観察しうる人々の行動とそれにより形成される空間を中心とした景観的観点からのあり方を捉える。	
	工芸とデザイン	日本の近代化の過程のなかで、工芸とデザインは相互に関係しつつ発展してきた。こうした歴史的な側面を踏まえ、具体的な作品や事例を概観することで工芸とデザインの基礎概念について考える。同時にそれらを歴史と分野を横断する連続的な事象とすることで、現代の工芸とデザインにおける相互関係の可能性について検討する。	
専門 特論科目	伝統建築特論Ⅰ	伝統建築の様式をとりあげ、代表的な様式の変遷や構法、素材、意匠の特徴などに関する知識を習得する。建築史も歴史学の一環であるため、政治・経済・社会・文化などあらゆる分野と関連して考える必要があり、建築の技術を様々な面(思想・価値観・社会制度・構法・材料・施工等)から捉えて、伝統建築における高度な理論の構築を目指す。	
	伝統建築特論Ⅱ	京町家や細街路(路地)の保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり(コミュニティデザイン)に関する知識の習得と高度な理論の構築を目指す。	
	建築計画特論Ⅰ	現代社会における多様なニーズに対応する建築計画における高度な知識と技術の修得を目的とする。比較的大規模な建築物を取り上げ、各種建築物における計画・構造・設備の総合的観点および実践的観点から、建築計画および設計の可能性を探る。	
	建築計画特論Ⅱ	建築デザイン、地域社会、現代社会の把握、環境の快適性、建築の安全性、インテリアデザインなど、これまで学習した建築計画の各専門領域の広がり相互の繋がりを理解し、より高度に空間構成をとらえる能力を養う。	
	建築設計特論Ⅰ	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。建築の理念が社会的資産としての責任に転換されるプロセスを実証的に検討する。また、学部課程において学んだ設計行為がいかにして社会的責任と結びつくかを検証する。	
	建築設計特論Ⅱ	建築家の思想と建築作品の関連性を探り、建築設計に関する理論の構築を目指す。建築の理念が社会的資産としての責任に転換されるプロセスを実証的に検討する。また、学部課程において学んだ設計行為がいかにして社会的責任と結びつくかを検証する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工芸学研究科建築学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門研究科目	建築デザイン特別演習 I	<p>建築の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザインカについて、より高度な知識とデザインカを養う。 学内外で実際の設計活動に携わる建築家教員（一級建築士）で、本専攻が相応しいと認めたもの最小1名を含み、複数教員による共同指導を行う</p> <p>〈建築デザイン分野〉 現在の建築・都市が直面する課題に対して、既存の型に縛られない建築提案を目的とする設計指導を行う。 （2 種村 俊昭） 都市分野の設計指導を行う。 （4 山内 貴博） 景観分野の設計指導を行う。 （9 安田 光男） 建築分野の設計指導を行う。 （10 人見 将敏） 建築分野の設計指導を行う。</p> <p>〈建築計画分野〉 建築計画理論を背景として、フィールドワークから現代建築と伝統建築の接点に着目した実践的な設計指導を行う。 （1 高田 光雄） 改修分野の設計指導を行う。 （7 井上 晋一） 住居分野の設計指導を行う。</p> <p>〈伝統建築分野〉 文献史料調査や実測調査を通して、建築史的観点から歴史的建造物の評価する研究及び伝統建築の設計指導を行う。 （3 大上 直樹） 伝統建築の設計指導を行う。 （8 森重 幸子） 伝統建築の設計指導を行う （11 岡北 一孝） 伝統建築の設計指導を行う</p> <p>〈美術工芸分野〉 工芸的な視点を通して、インテリア・建築・都市・景観を総合的に融合する革新的な領域の創造を目的とする設計指導を行う。 （① 新海 俊一） パブリックデザイン及びインテリアデザインに関する設計指導を行う。 （② 岡 達也） パブリックデザイン及びインテリアデザインに関する設計指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工芸学研究科建築学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 研究 科目	建築デザイン特別演習Ⅱ	<p>都市・地域の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力について、より高度な知識とデザイン力を養う。 学内外で実際の設計活動に携わる建築家教員（一級建築士）で、本専攻が相応しいと認めたもの最小1名を含み、複数教員による共同指導を行う</p> <p>建築デザイン分野） 現在の建築・都市が直面する課題に対して、既存の型に縛られない建築提案を目的とする設計指導を行う。 （2 種村 俊昭） 都市分野の設計指導を行う。 （4 山内 貴博） 景観分野の設計指導を行う。 （9 安田 光男） 建築分野の設計指導を行う。 （10 人見 将敏） 建築分野の設計指導を行う。</p> <p>〈建築計画分野〉 建築計画理論を背景として、フィールドワークから現代建築と伝統建築の接点に着目した実践的な設計指導を行う。 （1 高田 光雄） 改修分野の設計指導を行う。 （7 井上 晋一） 住居分野の設計指導を行う。</p> <p>〈伝統建築分野〉 文献史料調査や実測調査を通して、建築史的観点から歴史的建造物の評価する研究及び伝統建築の設計指導を行う。 （3 大上 直樹） 伝統建築の設計指導を行う。 （8 森重 幸子） 伝統建築の設計指導を行う （11 岡北 一孝） 伝統建築の設計指導を行う</p> <p>〈美術工芸分野〉 工芸的な視点を通して、インテリア・建築・都市・景観を総合的に融合する革新的な領域の創造を目的とする設計指導を行う。 （① 新海 俊一） パブリックデザイン及びインテリアデザインに関する設計指導を行う。 （② 岡 達也） パブリックデザイン及びインテリアデザインに関する設計指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工芸学研究科建築学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門研究科目	建築学特別研究 I	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士論文または修士設計の完成を目指す。</p> <p>〈建築デザイン分野〉 現在の建築・都市が直面する課題に対して、既存の型に縛られない建築提案を目的とする研究指導を行う。 (2 種村 俊昭) 都市分野の設計及び研究指導を行う。 (4 山内 貴博) 景観分野の設計及び研究指導を行う。 (9 安田 光男) 建築分野の設計及び研究指導を行う。 (10 人見 将敏) 建築分野の設計及び研究指導を行う。</p> <p>〈建築計画分野〉 建築計画理論を背景として、フィールドワークから現代建築と伝統建築の接点に着目した実践的な研究指導を行う。 (1 高田 光雄) 改修計画に関する研究指導を行う。 (7 井上 晋一) 住居計画に関する研究指導を行う。</p> <p>〈伝統建築分野〉 文献史料調査や実測調査を通して、建築史的観点から歴史的建造物の評価する研究及び伝統建築の改修設計の指導を行う。 (3 大上 直樹) 日本の伝統建築に関する研究指導を行う。 (8 森重 幸子) 伝統建築の改修に関する研究指導を行う。 (11 岡北 一孝) 西洋の伝統建築に関する研究指導を行う。</p> <p>〈美術工芸分野〉 工芸的な視点を通して、インテリア・建築・都市・景観を総合的に融合する革新的な領域の創造を目的とする研究に関する指導を行う。 (① 新海 俊一) パブリックデザイン及びインテリアデザインに関する設計指導を行う。 (② 岡 達也) パブリックデザイン及びインテリアデザインに関する設計指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工芸学研究科建築学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 研 究 科 目	建築学特別研究Ⅱ	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究(修士論文または修士設計)を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士論文または修士設計の完成を目指す。</p> <p>〈建築デザイン分野〉 現在の建築・都市が直面する課題に対して、既存の型に縛られない建築提案を目的とする研究指導を行う。 (2 種村 俊昭) 都市分野の設計及び研究指導を行う。 (4 山内 貴博) 景観分野の設計及び研究指導を行う。 (9 安田 光男) 建築分野の設計及び研究指導を行う。 (10 人見 将敏) 建築分野の設計及び研究指導を行う。</p> <p>〈建築計画分野〉 建築計画理論を背景として、フィールドワークから現代建築と伝統建築の接点に着目した実践的な研究指導を行う。 (1 高田 光雄) 改修計画に関する研究指導を行う。 (7 井上 晋一) 住居計画に関する研究指導を行う。</p> <p>〈伝統建築分野〉 文献史料調査や実測調査を通して、建築史的観点から歴史的建造物の評価する研究及び伝統建築の改修設計の指導を行う。 (3 大上 直樹) 日本の伝統建築に関する研究指導を行う。 (8 森重 幸子) 伝統建築の改修に関する研究指導を行う。 (11 岡北 一孝) 西洋の伝統建築に関する研究指導を行う。</p> <p>〈美術工芸分野〉 工芸的な視点を通して、インテリア・建築・都市・景観を総合的に融合する革新的な領域の創造を目的とする研究に関する指導を行う。 (① 新海 俊一) パブリックデザイン及びインテリアデザインに関する研究指導を行う。 (② 岡 達也) パブリックデザイン及びインテリアデザインに関する研究指導を行う。</p>	
	インターンシップⅠ	<p>実務能力を養うことを目指し、設計実務における理念や展望を持続できる能力、思考力や判断力などの実務能力に重点をおくものとする。また、近年の設計業務における経済面と時間面を優先する動向に対して、良識と責任感を全うできる人材の育成を目指す。 1年夏季に一定期間継続して学外の一級建築士事務所に outgoing、設計業務の補佐をとおして、実務の一端を体得しながら、実践的なデザイン手法及びそのプロセスを学ぶ。なお、実習先は本専攻が相応しいと判断した一級建築士事務所に限る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(工芸学研究科建築学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 研 究 科 目	インターンシップⅡ	<p>実務能力を養うことを目指し、設計実務における理念や展望を持続できる能力、思考力や判断力などの実務能力に重点をおくものとする。また、近年の設計業務における経済面と時間面を優先する動向に対して、良識と責任感を全うできる人材の育成を目指す。</p> <p>2年夏季に一定期間継続して学外の一級建築士事務所に出向き、設計業務の補佐をとおして、実務の一端を体得しながら、実践的なデザイン手法及びそのプロセスを学ぶ。なお、実習先は本専攻が相応しいと判断した一級建築士事務所に限る。ただし、インターンシップⅠを履修した場合、異なる実習先を選択する。</p>	

学校法人二本松学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
					京都美術工芸大学大学院 工芸学研究科				
					建築学専攻	10	0	20	大学院の設置 (認可申請)
					計	10	0	20	
					京都美術工芸大学 工芸学部				
					3年次				
美術工芸学科	100	5	410	⇒	美術工芸学科	100	5	410	
						3年次			
建築学科	150	5	610		建築学科	150	5	610	
計	250	10	1,020		計	250	10	1,020	
					<専>京都伝統工芸大学校 伝統工芸学科				
2年制課程	45	—	90	⇒	2年制課程	45	—	90	
3年制課程	80	—	240			3年制課程	80	—	240
高度専門課程	30	—	120		高度専門課程	30	—	120	
					伝統工芸専攻科				
2年制課程	20	—	40		2年制課程	20	—	40	
1年制課程	40	—	40		1年制課程	40	—	40	
計	215	—	530		計	215	—	530	
					<専>京都建築大学校				
建築科	360	—	720	⇒	建築科	360	—	720	
建築科二部	40	—	80			建築科二部	40	—	80
					3年次				
建築学科	40	120	400		建築学科	40	120	400	
建築専攻科2年	150	—	300		建築専攻科2年	150	—	300	
建築専攻科1年	50	—	50		建築専攻科1年	50	—	50	
計	640	120	1,550		計	640	120	1,550	